

20072

拍動モデル及び模擬血管を用いた院内教育

【はじめに】インターベンションにおいて心臓の解剖やデバイスの走行を理解するのは必須である。当院のカテ室は予定症例を各パラメディカルで中心となるスタッフが主に対応するが、夜間帯などは普段カテ室業務に携わる機会が少ないスタッフが担当することも少なくない。今回、普段カテ室業務に携わる機会が少ないスタッフを対象に拍動モデル及び模擬血管を使用して研修を通じた意識の変革を調査した。【対象と方法】拍動モデルおよび模擬血管を使用して、主にカテ室業務に従事3年以内のスタッフ16名を対象とした。研修内容は医師1名によるインターベンション手技のハンズオン、臨床工学技士1名による補助循環装置導入に対する説明、心臓および大血管の解剖について学習した。また、研修後のアンケートを実施して、今回行った研修の総合評価(5段階評価)、理解できたことなどの意見を集計した。【結果・考察】アンケートを実施した結果、総合評価は4.9と高評価であった。中でも医師によるハンズオンは実際の手技のイメージを深めることに繋がった。経験年数が浅いスタッフは正確に手技を理解している者は少なく、今回のような取り組みはより臨床に沿った教育方法であった。【結語】拍動モデル及び模擬血管を使用した研修は血管内を観察できることで、より鮮明なイメージを持たせることができた。そのため、経験の浅いスタッフが手技を理解するために有効な教育手段であった。